

<> はおもな地点をあらわしています

季節のできごと

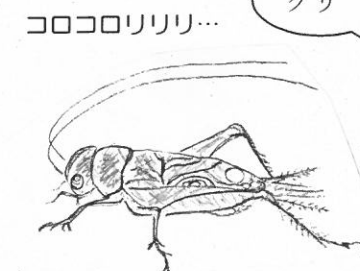
・**ドングリ**を探してみましょ。特に**社寺林<A>**、**育成林**のまわに色々な種類の木があります。
 ・**不時現象**をご存知でしょうか。通常の年と比べて、大きく異なる時期に花が咲いたり、蝶が飛んだりすることで、**異常気象**の年は多いとも言われています。晩秋(11月～12月頃)は、早春に似た気候なので、**報告**が増えるようです。生態園はどうでしょうか。



スダジイ/シラカシ



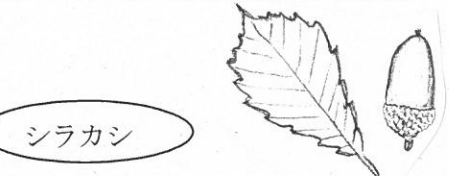
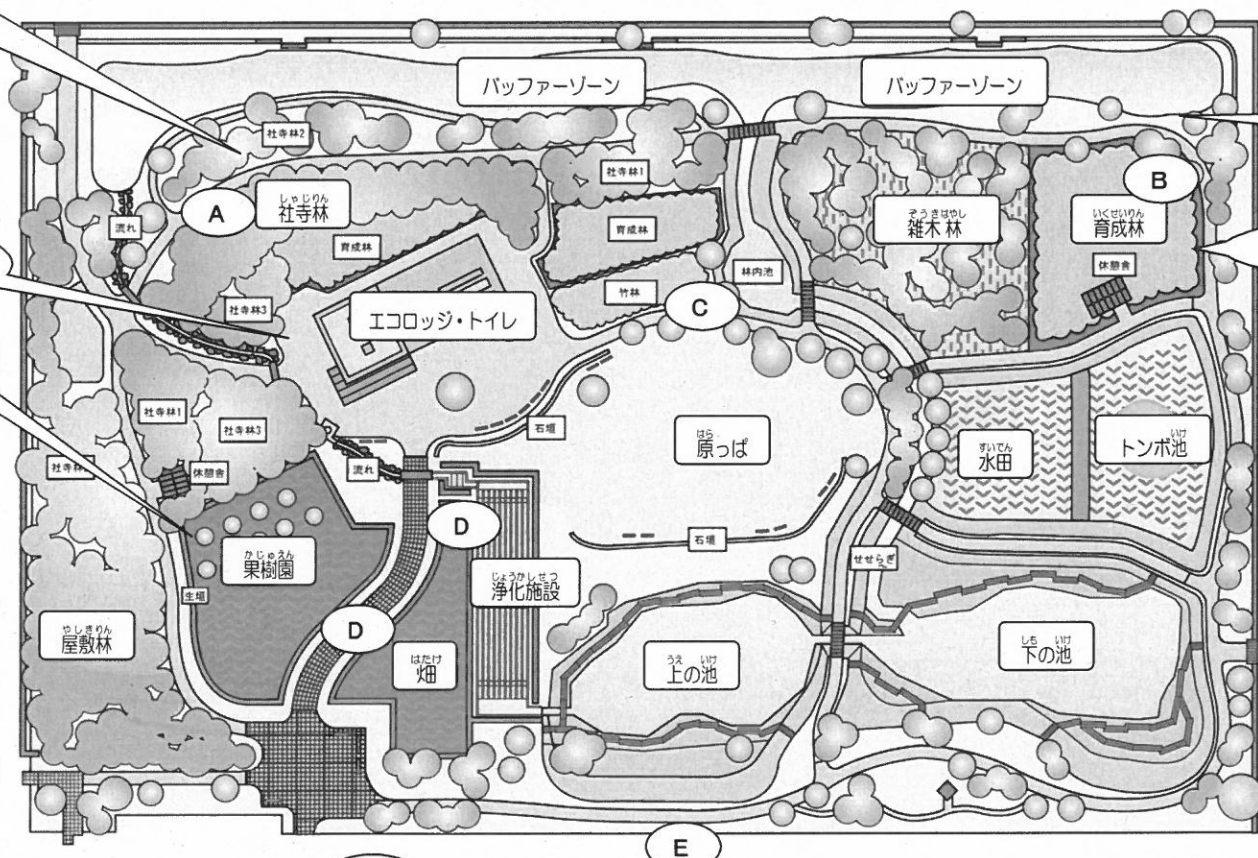
アラカシ



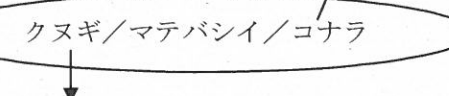
エンマコウロギ



ヒガンバナ<D>
(マンジュシャゲ)



シラカシ



クヌギ/マテバシイ/コナラ



クサギの実<C>

*アキアカネ



ヤブラン<E>

展望室

* 印は、裏に説明があります。

読んで参考にして下さい。



埼玉県マスコット コバトン

ドングリのなる木

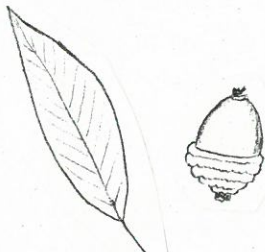
ドングリとは、ブナ科の樹木になる果実の総称です。実の一部または全体を殻斗に覆われているのが特徴です。クリも仲間になります。一番外側の堅い皮は果皮で、渋皮のなかに種子があります。どんぐりは種そのものではなく、果肉のない果実なのです。ブナ科の木は、一年中葉を茂らせる常緑樹と、冬には葉を落としてしまう落葉樹があります。

シラカシ

シラカシは常緑樹です。その特徴を生かして、冬の季節風を防いだり防火のために、昔から神社や屋敷のまわりに植えられてきました。

材が白っぽいのでシラカシですが、実は、比較的颜色が濃く、タンニンを多く含んでいて渋いです。殻斗は、縞模様です。

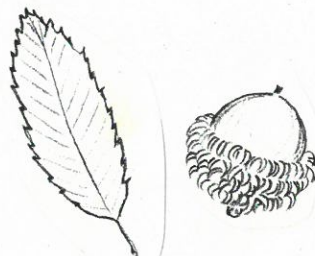
※殻斗・・・ドングリを包んでいるお椀のようなもの



クヌギ

クヌギは古くから木炭の材料として重用され、古くは国木(くにぎ)と呼ばれていました。カブトムシやクワガタが大好きな甘い香りの樹液を出す木でもあります。木の実は、丸くて大きく、殻斗はモジャモジャした毛のようで、反り返っています。

木の下に小さな丸い穴があいたドングリがあったら、シキソウムシの産卵跡です。幼虫はドングリの中で育ち、実が落ちると地中で蛹になります。



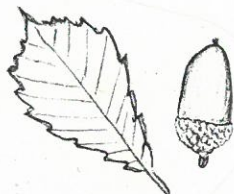
スダシイ

スダジイも常緑樹です。一般的にシイノキと呼ばれていることが多いようです。葉は細長い卵形で先端が尖っていて、葉の裏が茶色っぽいです。殻斗はクリのように実の全体を覆っていて、毛皮の袋を裂いたように3つに裂け、細長い実が現れます。シイ類の実は小動物の大好物です。

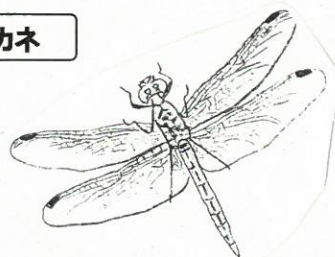


コナラ

コナラは、クヌギと同じように落葉樹です。幹は薪にしたり、シイタケのホダ木に使われます。落ち葉は水田に働き込んで、肥料に利用されます。その実は、シラカシのドングリとよく似ていますが、殻斗はうろこ模様(鱗片:りんぺん)です。



アキアカネ



「アカトンボ」は、特定のトンボではなく、体が赤くなるトンボ全てを指す俗称です。地域によりどのトンボをアカトンボと言うのかは異なり、関東地方ではアキアカネやノシメトンボを指すことが多いようです。

アキアカネの体は、羽化したときは赤くなく、菱わらのような色をしています。30度を超えるところでは生きられないため、夏の間、高原へ避暑に行きます。そして、秋になり体が赤くなってから集団で平地に帰ってきます。実はナツアカネやショウジョウトンボの方が全体が赤いですが、秋に群れをなして戻ってくることからアキアカネのイメージが強いようです。

生態園にはここに紹介した植物や、昆虫以外にも多く生息しています。

ぜひ皆さんの目で、耳で探してみてください。